

- ▶ 徳島県の南部に位置する那賀町は約95%が森林（65,958ha）であり、「木頭杉」を中心にH17年を底に素材生産量を伸ばしてきた。しかし、近年林業従事者数の減少もあり、森林の手入れがままならない状況となっている。平成31年度から森林環境譲与税が開始され、市町村主体の森林管理が求められるなかで、那賀町は、林業従事者数の確保にむけて、新たな補助制度の設立や林業に関連する資格取得、安全教育を進める「那賀町林業テクノスクール」を開設するなど事業を進めてきた。
- ▶ 一方で、担い手確保の一環として森林・林業や木材への関心と理解を広めるため、平成28年度末に県内初の「ウッドスタート宣言」を行い、木製誕生祝い品事業、木育広場整備、学校教育などの「木育」に取り組んできた。
- ▶ さらに木育を展開するため、那賀町を始めとした県南域の木育拠点として「那賀町山のおもちゃ美術館」を設置した。

## □ 事業内容

### 那賀町おもちゃ美術館整備事業

- ・木の良さ及びその利用の意義を学ぶ活動に参加できる場を提供することで、森林及び林業に対する理解を広げるため、那賀町及び県南の木育拠点として、「那賀町山のおもちゃ美術館」整備した。
- ・開館日：令和5年3月11日

【事業費】174,536千円（全額譲与税）

【実績】おもちゃ学芸員登録者数：97人（R5.3末時点）

## □ 取組の背景

・徳島県は、木育を推進するため、小規模な施設として徳島杉の子木育広場を20カ所設置し、大規模施設として「徳島木のおもちゃ美術館」を令和3年度に開設した。那賀町は県と連携し、町内および県全域で木育を加速させるため、杉の子広場と木のおもちゃ美術館を結ぶ県南の中規模な施設として当館を開設することとした。



（外観）



（内観）

## □ 工夫・留意した点

- ・施設整備にあたっては、活用する木材については町産材のみを利用しており、木材利用の取り組みに加えて、地元産業の活性化へとつなげた。
- ・施設整備においては、町有施設を改修する形で整備しており、コスト削減につとめた。
- ・施設整備にあたっては、林務部局のみならず、教育委員会部局とも連携した。
- ・ノウハウを保有する「東京おもちゃ美術館」との連携を行った。
- ・先行して開館している「徳島木のおもちゃ美術館」でスタッフ研修を行ったり、運営手法などを参考にした。

## □ 取組の効果

- ・木育拠点ができたことにより、今まで以上に木育促進に向けたアプローチが可能となっており、各種施策への展開が見込まれる。
- ・交流人口の増加も期待できる。

## ◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：209,586千円	②私有林人工林面積（※1）：40,379ha	
③林野率（※1）：94.6%	④人口（※2）：7,367人	⑤林業就業者数（※2）132人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より